



神の住処へ、もう一度

## 奥利根 越後沢右俣、滝ヶ倉沢

大野 他

【日時】2007年8月11日～15日

【メンバー】佐貫(L)、大野、木下、山川

2年前のよく晴れた春の午後、越後沢尾根の素敵な天場から見た越後沢。絶対に神様が住んでいるに違いないと思わせるような、神々しさと迫力を漂わせたその風景が頭に焼きついてずっと離れなかった。滝登りだけを目的とするならば秋の連休に来ればよいのだが、せっかく奥利根に入るならそれでは物足りない。飯豊が人気を集める中で奇跡的にメンバーが集まり、越後沢だけでなく更に利根の奥深くに足を伸ばしたくいろいろと相談した結果滝ヶ倉沢への継続という「奥利根夏合宿」計画となった。憧れの大滝、そこに立つことが本当に叶うのだろうか。(佐貫)

8月11日(土) 晴れ

湯桧曾のスイートルームで5時半に目を覚ますも、頭が痛い。昨夜、わらじの仲間の方々に挨拶に伺った際、気持ちよく飲み過ぎた。これでは、ホテルに早く着いた意味がない。よろよろと階段を下ると、すでにわらじPの姿はなかった。

快晴の空の下、タクシーを降り、奥利根マリンの二番船に乗りこめば、人界が次第に遠ざかっていく。刃物ヶ崎など懐かしい山々を眺めながら高柳さんの話に耳を傾けると、湖を渡る風が心地よい。高柳さんは私の顔を見覚えがあると言っていたが、十年前のことを覚えているのが客商売というものか。倒木の詰まった入り江の奥から船が去っていくのを見送ると、いよいよ夏合宿の始まりだ。

40超の酒と食料でザックはずしりと重い、今日は越後沢までと思えば気も軽い。奥利根の深い森を闊達に流れる本流は太い流れだが、水量は少ないためか優しい感じだ。河原をよろよろと歩いていくと、いつしか両岸が高くなり、シッケイガマワシだ。雪渓もなく、右側をへつってすんなりと通過。巻淵は、荷物が重いのであっさり右を巻いてしまう。昼には越後沢に辿りつき、二日間のビバークサイトを設営。雨にも絶対安全な幕場であるが、流れから遠いのが難点か。時間も早いので、木下さんと釣りに出掛けるが、いかにも居そうなポイントに餌を落としてみても、ピクリともせず。越後沢をしばらく遡り、十分沢にも入ってみるが魚影は見えず。木下さんは本流にも入ってみたというがやはり当たりなしとのこと。10年前の記憶によれば、サバのようなイワナが群遊していたはずなのに…。(大野記)

8月12日(日) 晴

今日は奥利根の華、八百間の大滝を目指す日。虫のせいかわ緊張の故か、皆寝不足気味。3時起床5時出発。

越後沢は、出合いから圧迫感のないゴルジュが続き、30分ほどで二股となる。右に入ると小滝が続くがどれも容易。すぐに現れる雪渓は下を潜る。1022mを回り込む辺りの第2の雪渓は、ブロックが重なる入り口から中を覗き込むも真っ白。ガスの中に突っ込み、薄明かりの中40m程で出口。この後も、快

晴の空の下、沢の水辺のみモヤがかかっている。モヤの中に現れた第三の雪渓は短く見えたので潜ったが、出口は依然深いガスの中で、雪渓が黒い口を開けている。覚悟を決めて突っ込むと澗があり、「泳ぎ!？」と思うが腰までで突破できた。その後もしばらく雪の下。山川さんは今回、初の雪渓潜りのことだが、心臓バコバコの実感したことだろう。岩の色が白っぽくなり、明るい感じがする地形を進むと、第4の雪渓。これも100mほど続き、天井が低い。これを抜けると、モヤが消えた。

6m滝は、少し戻ったルンゼから右岸を高巻く。地図上の雪渓マークに入った辺りの雪渓に乗ると、遙か高みから水を落とす大滝が臨まれた。ただ、雪渓は続かない。もう一つ雪渓を上から越すと、沢は左に曲がり、左岸から落ちる滝とともに、大滝の中段が見えてくる。「あんなの登れるのかよ…」。

幕場から3時間ほどで大滝の基部に到着。夏には殆ど雪で埋まっているはずの下段の滝が出ている。巨大な雪渓が半分崩壊し、壊れたブルーアイスが沢を埋めていた。登っている間にも、時折轟音が響く恐ろしい所だ。大野リードで左壁に取り付く。最初の10m程は濡れており、当てにならないハーケンを打ち、何手か思い切りで登る。上部は緩いスラブとなるが、雪渓の残骸が乗っており、あまり快適ではなかった。続いて登ってきた木下さんが、中段の下までルート工作。

中段は幅広の美しい滝。前半を木下さんリード。右壁に取り付く所が若干悪いが、支点のブッシュもあり、乾いた壁を快適に登る。2P目は大野リードで右端の凹角にザイルを伸ばすが、ぬめった岩

が悪く右のブッシュに頼って登る感じ。最後、落ち口に抜ける場所は水流に足を置き、シャワークライムで抜けるルートを探るが、結局ヤブに逃げ込んでしまった。

上段は少し離れているが、見事な150mの大滝となっている。時間がないので、最下段を右から巻くと、緩いスラブが広がり、天からサラサラと水が落ちてくる。佐貫さんが先行してドンドンフリーで登っていく。晴天の下、乾いた岩は熱いが、フリクションは抜群。最後、立ってきたので佐貫さんは日和って右

のブッシュに行こうとするが、折角ここまで来ているのだからと、ザイルを出して直登に拘る。時折、水が運ぶ涼風を感じつつ登っていくのは快適そのもの。1Pで高度感のある落ち口にたどり着いた。やったぜ!

小滝を越えた先の尾根から多少トラバース気味に中間尾根に上がる。時折尾根を渡る風が涼しいが、安定した天候は崩れる気配もなく日差しが眩しい。中間尾根からは、中俣の大滝と、そして、「あんな所、フリーで登るなんてバカじゃない」と佐貫さんの言葉も飛び出す右俣大滝が見事である。踏跡はあるといえはあ、ないといえは無い中間尾根を休み休み下っていると、右俣から轟音。今朝潜った第三の雪渓の前衛部分が崩壊している。尾根を忠実に辿り、二俣から少し右俣に入った所出た。ぐったりとし



【大滝上段(150m)】

て一休み。更に30分ほど下り、17時15分頃、越後沢出合BC着。

越後沢の大滝完登お疲れ様の握手。四人なので多少時間はかかったが、かつて越後沢尾根から眺めた大滝を自分たちで足下にしたことが嬉しい。

BCには、沼田山岳会の二人Pがいて、明日、越後沢右俣に入るとのこと。同じ日の遡行とならなくて良かった…。長い一日の余韻に浸りながら、焚き火を囲んでカレーを食らい、一日を終えた。(大野記)

### \* ザックを下ろして \*

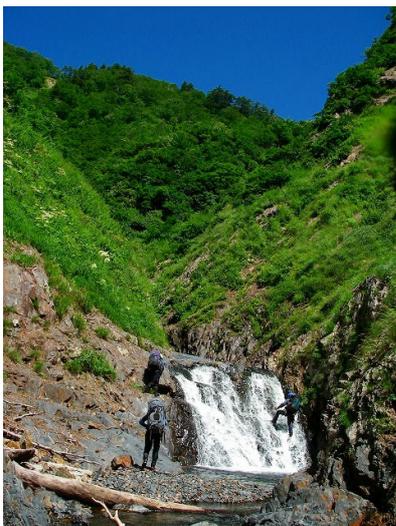
越後沢尾根の幕場から見て以来ずっと憧れていた越後沢に足を踏み入れ、感無量。自分には勿体無いような一日でした。(佐貫)／初の雪渓くぐりに心臓が震え、長大な大滝に感嘆の声をあげ、藪下降で熱中症になり、密度の濃い一日でした。自分にはまだ早い沢ですが、メンバーのおかげですばらしい体験をできました。ありがとうございます。(山川)／あまりに青い空の下、天からさらさらと水が落ちる大滝は素晴らしかった。奥利根の山々に抱かれ眠る快樂。(大野)／いよいよ越後沢。暗いゴルジュのスタート、威圧感がある。モヤの中にスノーブリッジ、心臓バクバクで4つくぐる。大滝はさすがにデカイ。快晴のもとザイルは4Pで抜ける、感激。暑いヤブの中間尾根に悪態ついて降りるが展望はすばらしい。へろへろで沢に出た、充実の1日。(木下)

8月13日(月) 晴れ

合宿3日目。今日は、滝ヶ倉の二俣までの行程である。徐々に荷物は軽くなり、体調も沢になじみ、さらに越後沢のプレッシャーから解放された気持ちの軽さも手伝い、実ののびのびした気分でも遡行する。

朝一番から、剣ヶ倉出合の本流左岸の踏み跡をたどって高巻く。まもなくヒトマタギで沢床にもどり、狭い本流をへつり遡る。とうとうと流れる水は、平時に較べても少なめなようだが、やはり廊下は緊張する。ほんのちよつとの泳ぎも避けたくて、私があんまり往生際が悪いので、佐貫さんに女関口さんとまで言われてしまった。

河原状の明るい溪相に変わる。本流らしい胸のすくようなおおらかな水の流れた。佐貫さんが数年前にきたときは、連日雨に祟られ増水して大変だったという。「ここまで水が流れていた」と指差すライ



【いぶし銀の滝ヶ倉沢】

ンは、ゆうに背丈を越え、退避したテント場の高台を眺めていると、そのときの苦闘がしのばれた。しかし、今日の奥利根は平和そのもの。支沢から午前中の陽が差し込んで光の幕が沢床を照らす。日常の澱が沈んでいくようだ。

銅ノ沢あたりで、釣りタイムとする。木下さんが竿をもって先行するのを見送ると、三者三様に河原に寝転ぶ。1時間ほどぼかぼか陽だまり昼寝。しかし『奥利根の山と谷』の巻頭写真でみたような手づかみしたという尺岩魚など、かつて本当に存在したのか怪しく思うほど、今回は全く魚影をみなかった。

滝ヶ倉沢は、名前の通り、深く切れ込んだ谷底に小滝が連続する沢だ。非常にぬめって滑るので気を使うが、たいていの小滝は登れて楽しい。最初8本目くらいまで数えていたが、こまごま続いたのでやめた。10個目くらいの7m滝は、大野さんが登ったそうにラ

く

インを追っていたが、無難に右岸から巻く。その後水量の多い支沢が右からはいと、3本ほどトイ状の小滝が続き、3段20m滝が現われ、すぐに二俣である。

二俣はうってつけのビバークサイトになっている。藪を払い、石をのけ、整地すると最高に快適な今宵の宿となった。この静謐。人のはいった形跡や気配があまりない。沢屋のおとないも数えるほどなのだろう。黄色いツェルトとひらひらひらめく干しもののTシャツと、さわさわ揺れる草色の斜面と、紺碧の空。花火を縫いとめたようなシシウドの花からおしべが舞って雪のようだ。ほくほくと幸せな気分になる。陽の高い時間から、ゆったりモードで宴会開始。暑いので、皆焚き火を遠巻きに眺めている。炎のあたりの空気がゆがみゆれているのを、普段はなごみながら飽かず眺めているのだが、今日はまるで砂漠で蜃気楼をみるような気分で、とても近寄れない。佐貫さんが背中をあぶられてふうふう言っている。

きくらげコンビーフ・カルボナーラ・もずく冷製スープ・キャベツベーコン味噌炒め・春雨マーボなど3日目とも思えない豪華な夕飯にデザートは杏仁豆腐で締めくくる。明日の藪漕ぎのことはつとめて考えないように満点の星空を飽きるまで眺めてから就寝。(山川記)

**\*ザックを下ろして\***

今日は半ドン。みんな物足りなかったかな？でも越後沢のあとで何とものんびり、まったりの一日でした。ああ幸せ～。(佐貫) / 回廊のように深くえぐれた谷間に支沢から光が差し込むと谷中が明るくなって至福感でいっぱいになった。今日のようなんびりした一日の記憶が明日の活力になる。幸せだなあ。(山川) / 剣ヶ倉沢から巻いて「ひとまたぎ」ここからのゴルジュは楽しい。泳いでへつって、でも岩魚は釣れなかった。今日は滝ヶ倉沢の二俣まで、滝の続く沢をすこしで幕。奥深い山の中の「まったり」はとてうれしい。(木下) / 魚がない、それだけが問題。青い空があり、焚き火があり、酒があり、語り合う人々がいる。至福の時。(大野)



8月14日(火)晴れ

中日を一日のんびりペースで過ごした後は、一転ハードな一日になりそうだ。稜線までのルート取りと、そこから2072までの藪漕ぎがポイントである。

幕場から先も沢には小滝が続く。一つ一つの滝に困難さはさほどないものの、岩がヌメリ気味なので気が抜けない。昨日に引き続きほとんど山川さんと木下さんが先頭でパーティーを引っ張っていく。両岸がますます立ってきたと思うと、やはり連瀑帯となっていた。前衛の滝に大野さんが右からショルダーで取り付くも、全員通過にはなかなか手こずりそうでありその上にも何やら滝のような音がする。少し下から右岸を巻く方がいいんじゃないの、と木下さんが提案、草付を斜上して連瀑も続けて巻き、灌木伝いにピタリ落ち口に出た。この後はまだまだ小滝が続き、振り返れば最初

**【本日の目標はあの小ピーク】**

のうちは越後沢が見えていたがその後は裏越後沢や丹後沢がよく望めるようになった。裏越後沢には驚くほど雪が少なく、対照的に丹後沢には雪がべったり。丹後の小屋も小さな点となって稜線に姿を現した。

さて、稜線そして剣ヶ倉山にはどうやって出るか？三本の顕著な沢型が現れる地形図を前に意見



が分かれるが、ピークに直接出ると思われた最初の二俣はただのガレルンゼでとてもつめていきたいような代物ではなかった。次に現れた二俣で、稜線をまっすぐ目指すか山頂方面へ行くかの選択となる。稜線からダイレクトに下りてきている支流は長さが2/3程度なのに水量が2倍くらい多いので、これは池塘があるせいだろうか？と不思議に思う。しかし稜線に出るのが早くてもその分藪が長くなる、との意見から、結局右に入った。思ったよりも沢型が長く続いてくれたが、それも尽きてからは一歩ごとに濃くなっていくような根曲がりの藪。目の前が「竹のモザイク模様」のように見え始めたころ、やっと稜線に出た。劔ヶ倉の山頂の南側は藪が薄く、周りには溪と尾根が無限の広がりを見せる。

2072まではひたすら稜線を行くしかない。標高が1900mもあるので多少は気温が下がっているはずだが、この天気ではかえって太陽に近づいているだけのようにも感じる。そして2072は平ヶ岳の間違いじゃないかと思うくらい遠くに見える…。

大野さんは「劔ヶ倉から平ヶ岳までの間には道がある」と断言していたが、よく聞くとそれは15年前の話だった。確かに一部、踏み跡っぽいところはあったが、劔ヶ倉から15分ほどでそれも消えてしまった。木下さんはしきりに地図を覗きこみため息をついてこちらを見ている。しかしここでエスケープするわけにはいかないと思い、「明日は平ヶ岳沢を下降せずに登山道を降りてもかまいませんから、今日はなんとしても予定通り行きましょう」と断言。以降、主に山川さんを先頭にゆっくりではあるが着実に進み、ついに2072に着いた。ザックを放り投げしばし休憩、たおやかな平ヶ岳と周囲の草原を眺めながら寝転がる。あとは木下さん先頭にどンドン平ヶ岳沢まで下り、少し登った左岸の支流に幕場を求めた。薪が無くて焚き火は出来なかったが、ツェルトの中の宴会は快適だ。今日の奮闘を肴に、合宿最後の夜は楽しく更けていった。(佐貫記)

#### \*ザックを下ろして\*

滝ヶ倉沢は名前の通り滝だらけ、振り返れば越後沢、裏越後沢、丹後沢が順番に見えてくる贅沢な展望台。ツメの根曲がりの藪はひどかった。久々の真夏の藪漕ぎは消耗したな。合宿の夜も今日で最後。(佐貫)／奥利根最奥の沢に入っているんだな。振り返ると越後沢山、本谷山、下津川、小沢、巻機、いずれも親しい山々だ。1年振りの真夏のヤブこぎは疲れたが、今日も良い日でありました。(大野)／滝ヶ倉沢はなかなかの1本、一筋縄でいかないところが良い。それよりも源流から劔ヶ倉山、平ヶ岳へのヤブ、久々にしごかれましたが、良き仲間感謝。平ヶ岳沢の幕場は別天地。これで最終日を迎えます。(木下)／今日は朝一番から小滝の連続。とてもヌメる。つめあげると長いやぶこぎが待っていた。暑くてもうろうとしてくる。しかし、ごほうびはすばらしかった。平ヶ岳に続く草原と平ヶ岳沢のなごやかな溪相、そして入道雲のわきたつ空。最高の夏です。(山川)

#### 8月15日(水) 霧のち晴

夜半に目が覚めてツェルトを抜け出すと、満天の星。煌く星、星、そして雲のような天の川が流れている。「今日で下山か…」早や、最終日である。素晴らしい星空のプレゼントをしばし楽しんだ。

草原の朝を爽やかに迎えて、と言いたいところだがツェルトを出るとブヨの大群が襲ってきて早々に立ち去る。小川のような流れをしばらくで登山道(木道)に到着、ここにザックをデポして平ヶ岳のピークに向かう。朝霧の中、美しい草原をお散歩気分歩き、今回の最高地点に到達である。長かったこの合宿も終盤である。

「玉子石」を見学して中ノ岐林道へ下山する。「玉子石」へ行く途中に標識のない道が分かれているが、ここが入り口である。道はしっかりしていてとても歩きやすい。途中、滝ヶ倉山あたりの稜線を「ヘリ」がホバーリングしているのが見える。奥利根側のガスが濃いので躊躇しているように見えたが、や



がて奥利根側に入っていった、「奥利根で事故かな」と皆で心配顔(やはり事故でした)。

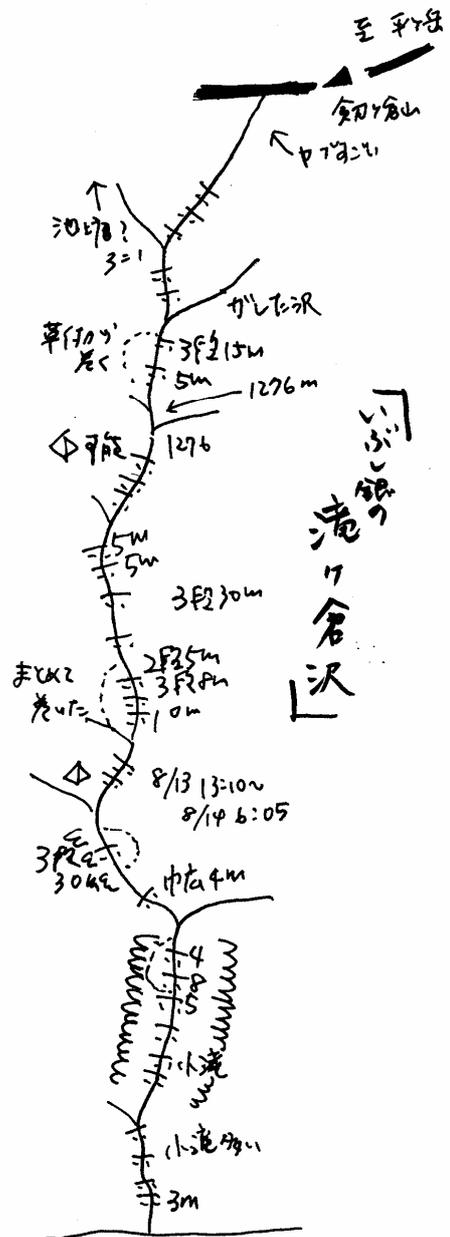
林道に到着するとバスが駐車している。先ほど何組かの登山者と擦れ違ったが、このパーティを乗せてきたのだろう。運転手としばしおしゃべり。あわよくば乗せてくれないかな…と甘いことを期待した(私だけ?)その気配はなかった。覚悟を決めて、15Kmの林道歩きに出発。幸い雲が多く、直射日光が少ないので助かる。途中、カブレ沢の連瀑帯や本流のナメに目を楽しませながら順調に雨池橋に到着、3時間強の林道歩きで本合宿行動終了となった。

早く到着したので「タクシー予約を早めたい」、と佐貫さんが国道で車を止める。なんと偶然にも衛星電話を持っていて、それを借りてタクシーを早く呼ぶことができた。タクシーで大湯に向かい、5日間の汗を流して小出駅前富貴亭で打ち上げとなった。

闊達な奥利根本流、豪快な越後沢の大滝、明るい滝が連続する滝ヶ倉沢、激藪の剣ヶ倉山～平ヶ岳沢、15kmの林道歩きと変化に富んだ、充実した5日間でした。リーダーと二人のメンバーに多謝。(木下記)

**\* ザックを下ろして\***

早朝の平ヶ岳は、露が朝日をはじいて光の海原のようでした。玉子石と湿原と遠景の山々(昨日やぶで苦しんだ稜線)も見事なバランスで配置されていて、5日間の夏山をしめくくるにふさわしい心に残る風景でした。やぶと水は手強いですが、虫のいない奥利根をめぐればいっぱい満喫しました。佐貫リーダーと木下さん大野さんのおかげです。ありがとうございました。  
 (山川) / 今日平ヶ岳のピークを散歩、久々ぶりで草原の朝を楽しんだ。中ノ岐川へ下山、登山道は快適。長い長い林道も曇りがちの天気恵まれ昼過ぎに下山、5日間の山行を終えた。天候と良きリーダー、メンバーに恵まれ、久しぶりの長期山行を無事終えることができました。多謝。(木下) / 本日は下山の日。今回は林道で曇る所まで完璧な天気でした。恵まれた天気の良い山行。心残りは、人跡稀な滝ヶ倉沢に残置を残してしまつたことくらい。皆様ありがとうございました。次はどこに行けるかなあ。  
 (大野) / 平ヶ岳5回目にして、初めて玉子石を見た。5日間のフィナーレは長い林道歩き。一步ごとに山行中のシーンを思い返しながら歩いた。この素敵な夏休みを授けてくれたメンバーと奥利根の神様に感謝します。(佐貫)

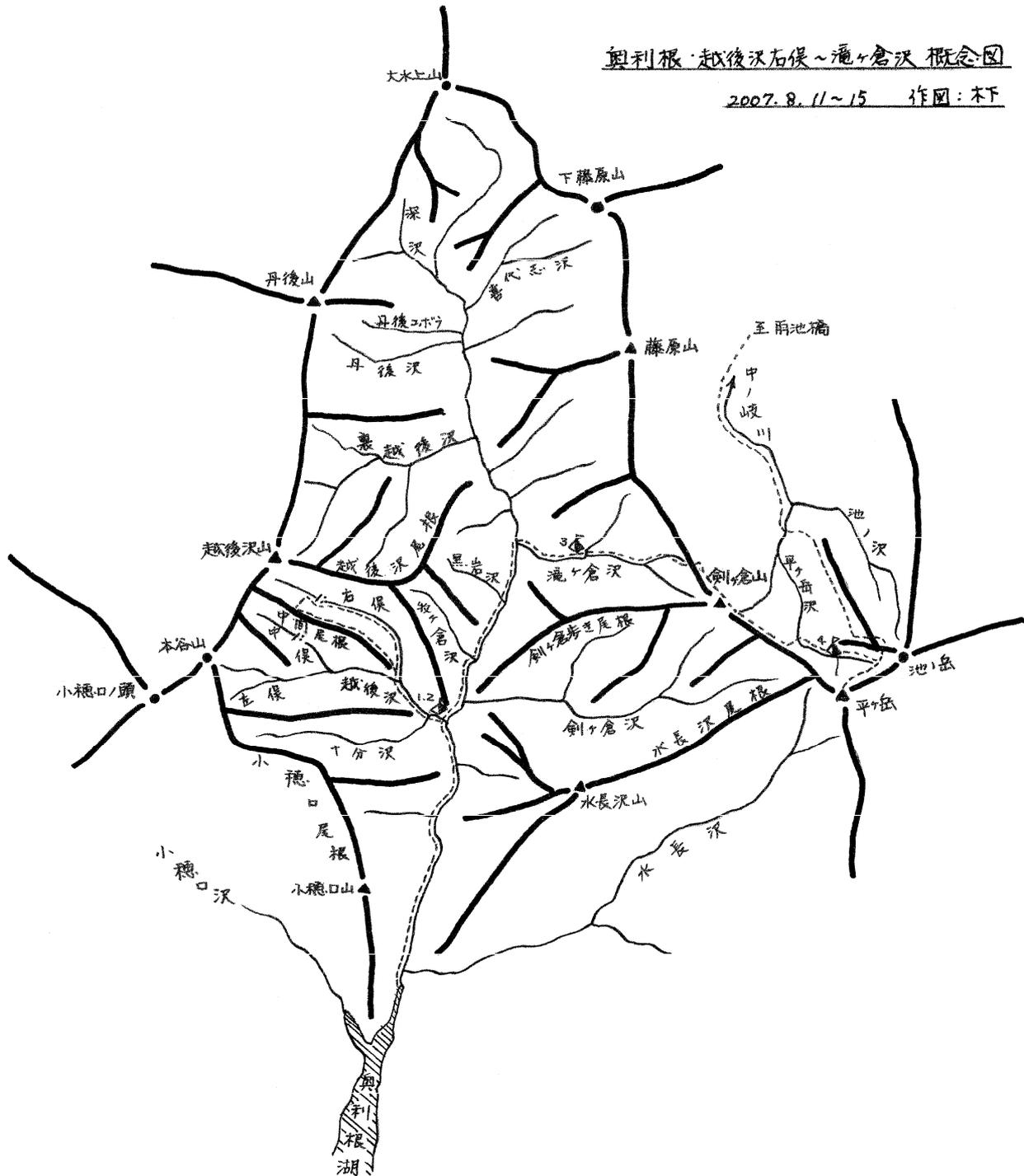


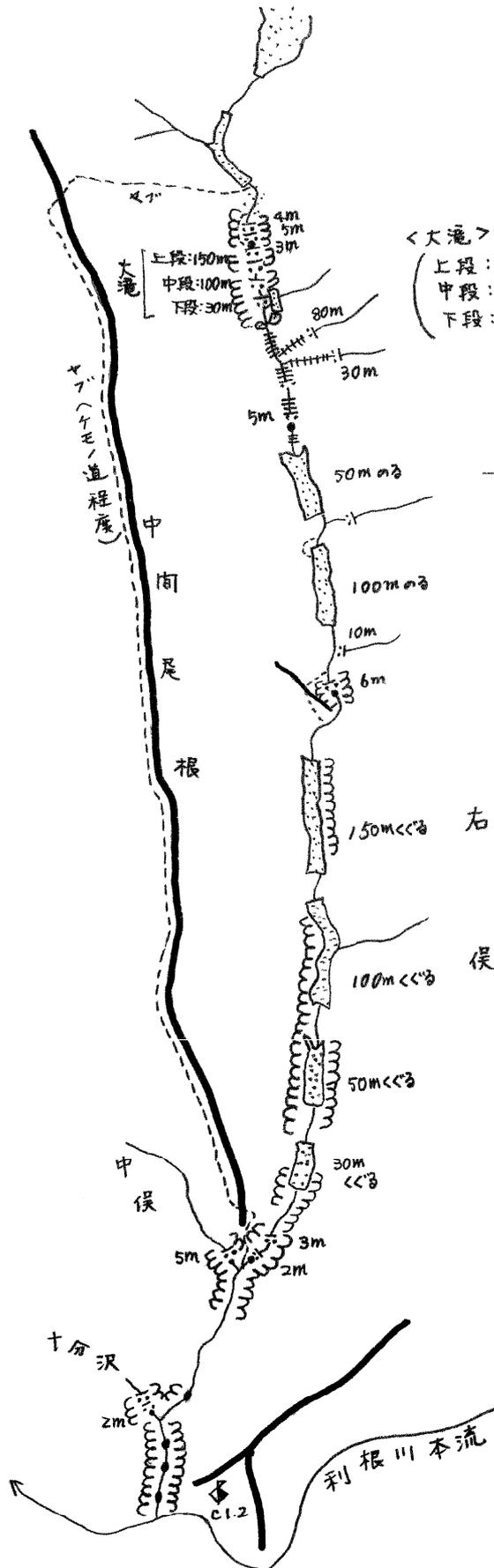
重荷に途方に暮れつつボートを下りてからアブが健闘を労ってくれた雨池橋まで、一滴の雨も降らないという好天の下で奥利根ならではの景色の数々に包まれたことを思い出し、山を下りた今もなお言葉にならない幸せを感じている。妄想だけで実力が伴わない自分にとって、大野さん、木下さん、山川さんがいなければ右俣大滝を登ることはずっと憧れのままだったし、滝ヶ倉沢への継続という選択肢も浮かばなかった。夢のような5日間。暑かった2007年の夏を思い出すたびに、私はこの僥倖をいつまでも牛のように反芻するだろう。(佐貫)



- 【行程】8/11 水長沢出合手前(8:10)－越後沢出合BC(11:00)  
8/12 BC(5:00)－越後沢二俣(5:34)－大滝下段下(8:00)－大滝上(13:20)－BC帰着(17:15)  
8/13 BC6:00－銅ノ沢出合(10:00/11:00)－滝ヶ倉沢出合で釣り休憩－二俣C3(13:10)  
8/14 C3(6:05)－劔ヶ倉山()－c.2072(16:10)－平ヶ岳沢支流C4(17:10)  
8/15 C4(5:45)－平ヶ岳(6:30)－玉子石(7:30)－林道終点(9:10)－雨池橋(12:16)

【地図】奥利根湖 尾瀬ヶ原 平ヶ岳 兔岳





<大滝>

上段: スラフ、7リ~上部1P 左-ス/カテ状  
中段: 右2P (1P目7-ス、2P落口7、シ)  
下段: 左7-ス 1p(40m)

奥利根・越後沢右俣

2007. 8. 12 作図: 木下